



佐野 淳祥
(緑水会)



求められる中心市街地活性化計画の策定

銀行や個店の閉店、市役所移転の可能性など、中心市街地空洞化の不安は高まっている。将来の展望を示す計画が必要だが、どうか。

コロナ禍における商店街への影響は市としても大変憂慮している。これまでの緊急経済対策に加え、コロナ禍において疲弊した経済の回復、新たな時代の商店街の形成に向け、中長期的な対策を盛り込んだ計画を令和3年度に策定していきたいと考えている。

消防団員の確保と、退職報償金制度の拡充

共済基準の30年を超え所属する団員が増加している。団員数確保のためにも35年、40年など退職報償金制度の拡充はできないか。

活動期間が40年以上にわたる団員もいる状況を踏まえ、退職報償金の支払い対象について、35年や40年以上など枠を広げる検討の必要性も感じているため、県外の事例も調査・研究していきたい。



他の質問事項
清住緑地の新エリアに休めるベンチの設置を



中村 仁
(緑水会)



「共創」で進めていきたい大場函南IC周辺の都市的土地利用

魅力的な企業の関心を得るためには市の積極的関与が不可欠。共に進める「共創」の考え方に基づく街づくりを期待するが、可能か。

地元が望む土地利用の実現を支援したいが、これまで地元地権者の中でもさまざまな意見があり、具体的な土地利用の合意に至っていない。まずは、地元が民間事業者と共に望ましい土地利用についてよく話し合い、一定の合意のもとに市に提案してもらいたい。



900万円の予算で行うことになった大場耕地での開発の可能性調査では、どのような調査内容をどのように生かすのか。

地元地権者との協議を重ねた結果、大場地区に似た立地条件で、10ヘクタール以上の青地を土地利用転換した事例の中から参考となりそうなる事例を選定する。各事例の事業手法、関係法令の許認可の過程、事業費、効果などについて調査し、今後の検討に活用する。

他の質問事項

青地解除に対する市の協体制確立は可能か



藤江 康儀
(改革みしま)



コロナ禍において必要な支援策と対応策

新しい生活様式に対応した市職員の働き方改革が考えられるが、テレワークの導入で現在想定している通信環境の整備について伺う。

テレワークを行う職員には、データの保存ができない専用ノートパソコンを貸与し、閉域網による専用の通信回線を利用して、利用者認証を要するデータセンターを介して庁内ネットワークに接続する。安全な通信環境で、個人情報を取り扱わない事務などを処理する。

体験農園と農業支援策

コロナ禍でも青空の下、有機農業体験ができ、指導員の厚い指導も受けられる、山田川自然の里と佐野体験農園の今後の展開を伺う。

有機農法の指導等が充実しており、心身共に健康な生活を送ることができると市民農園の良さをPRすることで、多くの市民の方にご利用いただけるよう努める。また、市民農園を通じ農業を身近に感じ、農業人口の維持に少しでも貢献していきたい。



大石 一太郎
(新政会)



市の農業活性化に向けた政策展開

スマート農業推進のため、AI・ICTに精通した地域リーダーの養成や、農業の技術革新・生産性向上を図る体制が作れないか。

JA三島函南と共に、農業者と一体となってAIパークで開催される研修への参加や、ICTを活用した農業生産技術の取り組み成果を共有していく。デジタル化に対応できる若手リーダーの育成を含め、スマート農業の普及に向けた支援を積極的に進める。



一人暮らしの高齢者への配食サービス

健康維持・介護予防の原点は食の保障と栄養改善。高齢化が進み、他市のサービス利用者が微増する中、30%台に減少した理由は何か。

平成29年度からの介護保険制度の改正に伴い、対象者を要介護者や事業対象者等に変更したこと、評判の良かった一部の給食配食事業者が撤退したこと、利用者の多様なニーズに対応する民間事業者が増加し、利用者の選択の余地が増えたことが理由として挙げられる。

他の質問事項

県総合健康センターと周辺部の土地利用は



佐藤 寛文
(無会派)



新型コロナウイルスのパンデミックによる影響と対策

新型コロナウイルスのパンデミックにより、本市の令和2年度・3年度の税収はどの程度の減収となるのか、現時点での想定を伺う。

市税の現年課税分について、令和2年度は、法人市民税等の減収や、徴収猶予の増加が見込まれ、当初予算額に対し4億円程度の減収を想定している。令和3年度は、不確定要素も多い現時点での推計で、令和2年度当初予算額に対し12億円程度の減収を見込んでいる。

コロナ禍の長期化で支援を必要としている方へ、包括的な相談体制の強化と、生活困窮者への継続的な支援に向けた取り組みを伺う。

国や県の支援策を的確に情報把握するとともに、関連する庁内部署、生活福祉資金貸付を担う社会福祉協議会および生活困窮者の相談窓口である三島市生活支援センターと丁寧連携し、引き続き個々の生活困窮者の状況に応じた断らない相談支援を展開していく。



他の質問事項
今こそ自殺対策を強化する必要性について

表紙の写真はどこでしょう？

表紙の写真の場所は、どこかわかりますか？

昭和9年に丹那トンネルが開通し、東海道本線のルート変更と同時に従来の三島駅が下土狩駅となり、現在の場所に三島駅が完成しました。富士山の裾野の広がりや三嶋大社の社殿をイメージしたと言われている切妻屋根の駅舎は印象的で、中部の駅百選にも選ばれました。平成23年には耐震補強のため現在の駅舎に改築されましたが、建築当時のデザインを受け継いだ形となっています。

また、今号の表紙の三島柄は、古典柄の「花文」と新柄の「富士山」を組み合わせています。さまざまな柄があるため、何をモチーフにしているか考えてみるのも楽しいですね。

議会だより編集委員会一同

